

A note on the time preference for asset

宇都宮 仁

法政大学大学院経済学研究科

要旨

本稿は再帰的効用関数を持つ Money-in-Utility-Function(MIUF) モデルを用いてインフレと経済成長の関係に焦点を当てている。時間選好率が資産の関数であった場合、インフレと経済成長は正の相関 (Mundell-Tobin 効果) を持つことが導かれる。また、資本市場がマーシャル的安定である場合、定常状態が鞍点解となることが明らかにされる。この資産市場の安定条件は、線形の生産関数と時間選好率の下では、ほとんどのケースで満たされていることが数値計算で求められている。

JEL code: E40, E52, O40

Keywords: recursive utility, money-in-utility-function model,

Mundell-Tobin effect